



ながしま

議会だより

NO.30



おどろきは 感動に変わる

長島の一大イベント

『ながしま造形美術展』が開幕

(関連記事 = P16)

9月定例会

(H25.9.13 ~ 9.25)

定例会で決まったこと.....	2~6
町政を問う(一般質問).....	7~11
常任委員会の審査報告.....	12~13
所管事務調査報告.....	14~15

住宅整備などに

2億1489万円追加

一般会計予算総額97億2937万円

平成25年度の一般会計補正予算のほか、介護保険、簡易水道、漁業集落環境整備の3特別会計補正予算を原案可決した。

今回、計上された予算の主な事業は次のとおり。

主な事業

- 役場庁舎（鷹巣）前駐車場の測量設計等・・・・・・・・・・828万円
- 阿久根地区消防組合東分遣所整備のための基金積立・・・・2,743万円
- 獅子島アイランドセンターの修繕・・・・・・・・・・160万円
- 獅子島パーク整備のための土地賃借、施設設計・・・・220万円
- 閉じこもり・介護の予防、仲間づくり等のサロン立ち上げ・・468万円
- 獅子島の特性を生かしたブルーツーリズム事業・・・・・・・・142万円
- 合戦場地区（観音漁港）の南防波堤の整備・・・・・・・・3,000万円
- 長島観光バスツアーの実施（造形美術展、おさかな祭り等）・120万円
- 4回目となる夢追い長島花フェスタの開催・・・・・・・・1,300万円
- 道路改良（第二浦底橋、茅屋橋）のための配水管布設・・・・1,154万円
- 幣串漁業集落排水施設の非常用発電室の増築・・・・・・・・60万円
- 三船公民館の白アリ駆除・・・・・・・・・・24万円
- イノシシの侵入防止柵整備（伊唐、川内、城川内、津山、山寺）・・1,811万円
- 青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図る給付金・・・・1,050万円
- 規模拡大や経営の多角化を図るための農業用機械の整備支援・・231万円
- 荒廃竹林を整備して筍生産量の増加を図る事業・・・・・・・・61万円
- 町道萩之牟礼茅屋線の整備・・・・・・・・・・2,255万円
- 第二浦底橋の整備・・・・・・・・・・800万円
- 蔵之元に1棟1戸、城川内に1棟2戸の住宅を整備・・・・4,521万円
- がけ地近接からの移転に伴う経費の利子補給・・・・・・・・519万円



東分遣所整備の基金を積立



防波堤を整備する観音漁港



整備される第二浦底橋



葛輪漁港の公有水面埋立予定地を調査する建設経済文教常任委員会

平成25年第3回長島町議会定例会は、9月13日から25日までの13日間の会期で開かれた。

平成24年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について報告され、平成25年度の一般会計補正予算（2億1489万円追加、総額97億2937万円）や特別会計補正予算、消防ポンプ車購入売買契約の締結、長島町条例の一部を改正する条例など議案13件を可決、陳情3件を採択した。

このほか、議員の発議により道州制導入に断固反対する意見書を可決。平成24年度長島町決算の認定について特別委員会を設置し、継続審査とした。



小学校パソコン室のパソコンを更新

契約

小学校用パソコン等の購入
小学校のパソコン教室用のパソコン等備品購入を2084万2500円で株式会社南日本情報処理センター（鹿児島市）と契約締結することを議決した。



更新される中央分団の消防ポンプ車

契約

消防ポンプ車の購入
中央分団へ配備する消防ポンプ車購入を1911万円で鹿児島森田ポンプ株式会社（鹿児島市）と契約締結することを議決した。

その他



埋立が予定されている葛輪漁港

公有水面埋立

長島港（諸浦地区）と葛輪漁港の施設整備にともなう道路・漁港用地として公有水面埋立を実施するための免許出願意見を求められたので、異議はない旨の意見を議決した。



港整備が進む長島港（諸浦地区）

契約

長島港（諸浦地区）の港整備

長島港（諸浦地区）港整備交付金工事（1工区）を1億4017万5千円で株式会社長崎組と契約締結することを議決した。

長島港（諸浦地区）港整備交付金工事（2工区）を8731万8千円で株式会社大島造船所九州営業所（福岡市）と契約締結することを議決した。

陳情

森林吸収源対策等への財源確保

町特別導入事業基金条例の一部を改正した。
改正の主なものとして、条例の題名を長島町家畜導入事業基金条例へ変更し、基金の額を4200万円から2833万円へ改めた。

少人数学級の推進等

長島町指江の久保省治氏から提出された「少人数学級の推進など定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2014年度政府予算に係る意見書採択の要請について」を採択し、同趣旨の意見書を可決した。

地方財政の充実・強化

長島町職員労働組合執行委員長濱田照幸氏から提出された「地方財政の充実・強化を求める意見書採択に関する陳情書」を採択し、同趣旨の意見書を可決した。

認定

長島町決算の認定

平成24年度長島町決算を議会の認定に付されたので、決算特別委員会を設置し、継続審査とした。

報告

健全化判断比率と資金不足比率の報告

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の定めるところにより、長島町における平成24年度決算に基づく健全化判断比率と資金不足比率が報告された。

条例

税条例の一部を改める

地方税法および鹿児島県税条例の一部を改正にともない、長島町税条例の一部を改正した。

国民健康保険税条例の一部を改める

地方税法の一部改正にともない、長島町国民健康保険税条例の一部を改正した。

特別導入事業基金条例の一部を改める

肉用牛資源の確保等のために設けられた長島町特別導入事業基金は、国の実施要領等により設置されていたが、国の事業が終了した。そこで、県が定めた実施要領において事業を継続するため、長島

一般質問

一般質問 町政を問う

川上 勇 議員



畑作農業活性化 対策を問う

答 町長 農家への

川上議員 本町の基幹作物であるバレイシヨは、2年連続の価格低迷による打撃を受けた。長島のバレイシヨを守り抜くために支援策は考えられないか。

また、バレイシヨ等、町が指定した作物の価格補償制度や農作物の価格下落のとき適用される収入保険制度等の早期実現を国へ要請す

ることに伺う。

答 町長 農家への

2年連続のバレイシヨの安値は影響が大きいので、何らかの対策が必要と認識している。現在、担当課に対策を指示している。

作物の価格補償制度等の国への要請は、先頭に立って努力したい。

バレイシヨ中心の作付けの見直し

川上議員 今年のバレイシヨ

発議

道州制導入に断固反対

道州制は、住民と行政との距離を遠くし、住民自治が衰退してしまうことが明らかであるため、町議会議員の提案により「道州制の導入には断固反対する意見書」を可決した。

道州制導入に断固反対する意見書

我々町村議会は、平成20年以来、町村議会議長全国大会において、その総意により、「住民自治の推進に逆行する道州制は行わないこと。」を決定し、本年4月15日には、全国町村議会議長会が「町村や国民に対して丁寧な説明や真摯な議論もないまま、道州制の導入が決定したかのごとき法案が提出されようとしていることは誠に遺憾である。」とする緊急声明を行った。さらに、7月18日には、「道州制は絶対に導入しないこと。」とする要望を決定し、政府・国会に対し、要請してきたところである。

しかしながら、与党においては、道州制導入を目指す法案の国会への提出の動きが依然としてみられ、また、野党の一部においては、既に「道州制への移行のための改革基本法案」を第183回国会へ提出し、衆議院内閣委員会において閉会中審査となっているなど、我々の要請を無視するかの動きをみせている。

これらの法案は、道州制導入後の国の具体的なかたちを示さないまま、期限を区切った導入ありきの内容となっており、事務権限の受け皿という名目のもと、ほとんどの町村においては、事実上の合併を余儀なくされるおそれが高いうえ、道州はもとより再編された「基礎自治体」は、現在の市町村や都道府県に比べ、住民と行政との距離が格段に遠くなり、住民自治が衰退してしまうことは明らかである。

町村は、これまで国民の生活を支えるため、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統・文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、住民とともに個性あるまちづくりを進めてきた。それにもかかわらず、効率性や経済性を優先し、地域の伝統や文化、郷土意識を無視してつくり上げる大規模な団体は、住民を置き去りにするものであり、到底地方自治体と呼べるものではない。多様な自治体の存在を認め、個々の自治体の活力を高めることが、ひいては、全体としての国力の増強につながるものであると確信している。

よって、長島町議会は、道州制の導入に断固反対する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

イシヨの安値の原因は、全国的な生産過剰との情報である。バレイシヨ中心の作付体系を面積の3割くらい豆類等に転換する見直しを実行に移す機会と伺う。町長の考えを伺う。

作付転換を推進

答 町長 スナップ、エンドウ、キャベツ、玉ねぎなどの推進を図っている。これらの作物は、長島の気候に適しているので収益性向上に努める。

バレイシヨと甘藷の輪作体系の充実、転換作物の定着は、本町農業振興上大事な問題として対応する。

農業活性化の指針策定は

川上議員 農産物の価格低迷、TPPによる農産物の貿易自由化等課題が多く、将来に向けての農業の展望が見

えにくい。町民の皆様にはわかりやすい長島型の農業活性化指針づくりはできないか。

関係機関、技連会等での対応

答 町長 中心的経営体と小規模農家が共存する仕組み等農業活性化のため関係機関、技連会等中心に対応したい。

安全・安心な消防行政を問う

東分遣所の建て替えは川上議員 現在の東消防分遣所は、施設が非常に狭く老朽化しており台風や地震の時は危険な状態である。

早急な建て替えを望む声が多いが、何よりも優先して建設する考えを伺う。

財源確保に努力中

答 町長 東分遣所

建て替え候補地として、鷹巣地区内に3カ所を選定している。現在、国、県に補助金等財源確保を要望し努力中であるので、しばらく時間がほしい。

長島分遣所存続を問う

川上議員 両消防分遣所が統合された場合、長島分遣所の管轄となつている大部分の地域は、救急車等の現場到着が遅れる。町民の皆様は

所の存続への要望は、根強いものがある。長島分遣所の存続の考えを伺う。

当分は存続

答 町長 道路の整備状況、高規格救急自動車および救急救命士の配備状況を勘案し、既存の分遣所が廃止されることによる住民の不安解消には特に配慮したい。

早急な統廃合は考えず、当分の間は存続すべきと考える。



長島分遣所の存続を



池田 廣 議員

定住促進支援事業は

池田議員 2013年3月末時点の日本の人口は、前年同期より26万6004人少ない1億2639万3679人で、65歳以上の人口は3186万人と、初めて3000万人を突破している。

県下各市町村においても、人口減少に少しでも歯止めをかけるために、あらゆる方法で定住促進事業を取り入れている。

答弁 町長 交流の拡大と定住の促進による地域の活性化を図るために、空き家バンク制度設置要綱と空き家を有効活用し、移住促進による人口増加を図るため、定住促進空き家活用事業補助金交付要綱を定めている。

教育問題について

池田議員 今年3月末閉校した獅子島小学校、108年の歴史を

持つ幣串小学校が閉校して、はや6カ月を迎えた。人影のない校舎に一抹の寂しさを感じている。

教育委員会としても協議会を立ち上げてあると思うが、2校の活用と管理をどのように考えているか問う。

答弁 町長 現在、職員レベルで検討委員会の事前協議を行っており、今後、関係者や地元の方と離島活性化交付金による先進地研修などを行い、地元の意見を集約して、検討委員会でも方向性を決めた。

答弁 教育長 検討委員会については、10月中に立ち上げ、メンバーは現在のところ20人程度を考えている。

道路整備について

県道47号線(葛輪瀬戸線)の道路改良は

池田議員 県道47号は、国道389号と並んで長島町の主要道であることは周知のとおりである。

答弁 町長

県道葛輪瀬戸線の改良については、現在、本浦校区の改良工事が平成27年度完成予定である。

業用水確保安定策を図られたらどうか。

答弁 町長 国、県、関係機関等へ要望したい。

獅子島架橋についての国、県への対応策は

田中議員 獅子島架橋建設促進期成会を結成して20年近くなる。

答弁 町長 県の離島振興計画に「獅子島架橋及び夢追い獅子島架橋基金」があり、県当局の理解を得ている。

人口高齢化の状況は 田中議員 少子高齢化は、依然として進展著しいものがあり、平成18年両町合併当時12347人が、現在11233人で1114人減少している。

財政状況は 田中議員 自主財源に乏しい本町にとって、行政運営に支障をきたす恐れがある。

農業用水の確保を 田中議員 今年度の夏場降雨が少なく、特に本町における水田地帯、畑地が渇水に見舞われた。

学校統廃合は勇断を 田中議員 平成18年、東、長島両町が合併して7年目になるが、学校施設統廃合が計画に

基準で改良工事が継続され、現在の車両の大型化、交通量の増加を考えると改良の必要性はあると思う。



葛輪瀬戸線(山門野地区)の改良を

次回定例会は 12月上旬 開会予定です



傍聴に おいでください

長島町議会の本会議は公開されていて、どなたでも傍聴することができます。



林 義明 議員

世界農業遺産認定に向けての取り組みは

林議員 世界農業遺産の目的は、土地の環境を生かした伝統的な農業等「地域システム」として、一体的に維持保全し、次世代へ継承していくことを目的として、平成14年に国連食糧農業機関が創設した制度である。

う。世界農業遺産の認定後の動向等を含めて調査する

答弁 町長 認定される地域で生活できる人たちに相当の働く、住む、保存していく恩恵があるのか、また、農業の多面的な効果が出てくるのか、積極的に調査してみる。

認定数は世界で25カ所、うち日本は5カ所で、認定後は農業者の数が増加し、農業や地場産業、観光などが活性化されると言われているが、認定に向けて取り組みはできないか伺う。

過去の国際的農業の交渉結果は 林議員 平成5年ガット、ウルグアイラウンドの農業交渉で、7年かけて最終合意したが、今どのようになっているのか伺う。



パレイシヨを安心して栽培できる環境を

価格安定制度の町単独事業としての制度化は

林議員 バレイシヨに

国の施策に基づき農業生産基盤等を推進してきた 答弁 町長 農業の多面的な機能に留意しながら新しい食糧、農業、農村政策を立ち上げ、町は担い手の確保、農業生産基盤の整備、農地の利用集積の促進等の推進を図ってきた。

限り価格に左右されず、安心して栽培できる価格安定制度は町単独でできないか伺う。 町単独は難しいが、新たな制度ができれば前向きに取り組む 答弁 町長 生産農業全体の救済につながるような事業導入と関係機関、生産団体と協議し検討する。また、最小必要限度を町が負担するような制度ができれば前向きに取り組む

強化選手の支援は

林議員 小学生の軽量級で城川内小、重量級で田尻小、中学生では重量級で川床中の児童・生徒計3名が、県の柔道会より強化選手として指定され、各大会、合宿に参加し、技術の向上に励んでいる。

保護者としては、子どもの成長を期待し一生懸命であるが、負担は大変なものと思うが、強化選手に対して支援はできないか伺う。

スポーツがますます盛んになるような取り組みを町でも実施する 答弁 町長 2020年のオリンピック、パラリンピックの東京開催が決定し、この年の10月には国体が鹿児島

で開催される予定で、7年後の開催に向けて県でもスポーツ選手の強化に向けた取り組みがなされると思う。町もスポーツがますます盛んになるような取り組みを実施していきたい。

答弁 教育長 全国大会等に出場する選手について、補助金交付要綱を定め、経費の一部助成しているが、現行の補助金交付要綱では選手強化に伴う経費や地区大会参加に伴う経費についての補助規定はないので、今後は見直しをする必要があるものと考えている。



小川 武男 議員

3期目の政策目標は

小川議員 来年4月に町長選挙が実施されるが、出馬の意向と3期目の政策目標を伺う。

3期目の出馬を決意 答弁 町長 3期目を目標として出馬する決意を持っている。

3期目の政策目標は、終始一貫、将来の子どもたちには夢を、若者には活力を、社会的弱者には生きがい、を、夢と活力があり、一人一人を大切にすることを、福祉の充実した町づくりを政策目標に掲げている。

3期目を指したビジョンは、3県架橋建設の促進と地域高規格道路の整備格上げ、獅子島架橋建設に向けた条件整備、西回り自動車道の早期全面開通、阿久根北インターから空港道路取り付け等、夢の実現に向けて努力していく。

人口減少へ歯止めを

小川議員 少子化の影響により合併後7年半で1100人余り減少している。このままで推移すれば7年後は1万人を割ると推定されている。

そこで、次の補助助成ができないか。 ①Uターン、Iターン引越費用や家賃への助成。 ②町内同士のカップルや町外から花嫁を迎えるカップルへの結婚費用に対する助成。 ができないか伺う。

1万人が理想の人口

答弁 町長 町の人口は1万人以上が望ましいと考えている。1万人を維持するために、産業の振興と出産祝い金や医療費助成、保育料の軽減など子育て支援はもとより、さまざまな定住のための施策を行いながら、人口減少を最小限にとどめる努力をしていきたいと考えている。

提言のUターン、Iターンへの助成や結婚費用等への助成は、今後、政策審議会で検討していく。

雲仙天草長島国立公園へ名称変更

小川議員 観光インフラ等の整備を行い、観光客の増につなげる、次の施策が実施できないか伺う。

①雲仙天草国立公園に長島の二文字を加え、観光浮揚につなげられないか。 ②観光名所の一つである長崎鼻灯台へのアクセス2町道を2車線に改良して、利用者の利便性や観光地としての価値を高め、入り込み客の増を図れないか。

③サンセット長島周辺整備が進み、魅力ある観光地づくりが進んでいる。しかし、ホテル本体が現在の二ースに対応できず、建て替えの計画が進んでいる。そこで、この機会に魚釣瀬から小浜へつなぐ海辺の遊歩道と風車公園周辺の遊歩道の整備を行う考えはないか。

備を行う考えはないか。 水平線に沈む夕日が見える遊歩道整備を 答弁 町長 雲仙天草国立公園に、長島町が占める割合が低く、変更は難しいとの回答があったが、名称の変更が可能であれば、大変有益で観光振興につながるのでは、関係省庁に実現に向けて要望活動を継続していく。

長崎鼻灯台へのアクセス道路の改良整備は、必要であると思っっている。夕日と灯台がベストマッチした景勝地であり、これまで魅力ある観光地づくり事業で整備を進めているが、国道から灯台までの道幅が狭く、観光客にわかりにくい道路である。 現在、総合振興計画で、町道長崎鼻線の改良を計画している。



長崎鼻灯台アクセス道路の改良を

また、サンセット長島は、建て替えを計画している。ここを拠点として周辺地域も合わせて整備する必要性を感じている。海岸遊歩道と林間遊歩道を利用するには、抜本的な改修工事が必要であり、かなりの経費が必要である。

常任委員会の審査報告

各常任委員会の主な審議内容を紹介します。

総務民生常任委員会 委員長 小川 武男

▼総務課関係

問 防災行政無線管理費で修繕費70万円計上してあるが内容は。

答 防災行政無線用個別受信機屋外アンテナ取り付け50基と機器修繕費である。

問 財産管理費828万3000円計上しているが内容は。

答 東分遺所整備事業に係る基金造成で、電源立地地域対策交付金を充て、5年間積み立て事業の推進を行う計画である。

問 コミュニティ推進費160万円計上しているがその内容は。

答 獅子島アイランドセンターの施設修繕を行うもので、ステージ画である。

問 賦課徴収一般経費で41万5000円計上しているがその内容は。

答 経営の健全化および要介護認定に係る入所者の増加に対応するための、臨時職員の賃金で園長が月額16万円、介護職員が月額7

問 児童措置費で68万2000円計上しているがその内容は。

答 母子家庭を施設に入所させ保護し、自立促進のために生活を支援する事業であるが、平成24年度は対象者がいなかったため、補助金を返納するもの。

問 長生園管理費で179万1000円計上しているがその内容は。

答 経営の健全化および要介護認定に係る入所者の増加に対応するための、臨時職員の賃金で園長が月額16万円、介護職員が月額7

問 児童措置費で68万2000円計上しているがその内容は。

答 母子家庭を施設に入所させ保護し、自立促進のために生活を支援する事業であるが、平成24年度は対象者がいなかったため、補助金を返納するもの。

委託料に315万円、住宅、事務所等実施設計委託料に299万7000円である。

問 特定離島ふるさとおこし推進事業費210万円計上しているがその内容は。

答 パーク施設設計管理費委託料で設計内容変更による増額である。

問 空中展望所や望洋回廊など、獅子島ならではのデザインへ3カ所すべてを変更するが、工事費の増額はなく、今年度内に完成する計画である。

問 賦課徴収一般経費で41万5000円計上しているがその内容は。

答 経営の健全化および要介護認定に係る入所者の増加に対応するための、臨時職員の賃金で園長が月額16万円、介護職員が月額7

問 児童措置費で68万2000円計上しているがその内容は。

答 母子家庭を施設に入所させ保護し、自立促進のために生活を支援する事業であるが、平成24年度は対象者がいなかったため、補助金を返納するもの。

問 長生園管理費で179万1000円計上しているがその内容は。

答 経営の健全化および要介護認定に係る入所者の増加に対応するための、臨時職員の賃金で園長が月額16万円、介護職員が月額7

000円で、7月から3月までの不足額9カ月分を計上。

▼保健衛生課関係
問 老人福祉費で、地域支え合い体制づくり事業に468万円計上しているがその内容は。

答 NPO法人「ふうしゃ」に委託し、大字を中心に17カ所を目標にサロン事業を立ち上げる計画である。

サロン事業は、高齢者の方が地域内で気軽に集まり、お茶会や健康体操等を行い、閉じこもり防止や介護予防、安否確認、仲間づくりを目的として行うもの。

▼委員会所見
現地調査は、役場庁舎前駐車場確保に係わる3カ所を調査した。駐在所を改修して教職員住宅等に活用する計

画であるが、周辺の環境など、住宅として適さないのではないか。

また、駐在所住宅・事務所等実施設計業務委託料、獅子島パーク施設設計管理委託料は事業費に対して多すぎではないかとの意見があり、事業推進については適切な予算執行を努めてほしいとの意見であった。



役場庁舎前の駐車場を現地調査

常任委員会の審査報告

建設経済文教常任委員会 委員長 下塩見 浩

▼建設課関係

問 公営住宅整備の旧城川内幼稚園で、新築工事の場合と改修工事の場合、建設費はどれくらい違うのか。

答 新築すると1棟2戸で解体費等含め約3500万円、改修工事だと約2500万円かから、約1000万円違ってくる。

問 水産商工課関係
問 観音漁港（合戦場地区）の着工と完成予定はいつか。

答 観音漁港（合戦場地区）の整備は、実質平成24年度から平成28年度までの補助事業であり、護岸整備と防波堤、物揚場の整備を計画している。

問 農林課関係
問 阿久根市にイノシシやシカの処理施設ができていないが、処理施設の計画はないか。また、侵入防止柵設置事業で、設置した地域の被害状況は。

答 現段階では処理施設の計画はない。防止柵を設置した地域での被害は報告されていない。

問 水道課関係
問 水道施設管理費の

測量設計委託料で、軽微な測量設計については職員で対応できないのか。

答 今回の設計箇所には、導水管、送水管、排水管の3本が入っているため委託をした。町単独事業については、極力職員で対応して予算削減に努めた。

▼委員会所見
公営住宅建設で、今後も跡地活用等で新築か改修かの判断が必要な事業が出てくると思われるが、施設の建設費に多額の差がないようであれば新築の検討をした方がいいのではないかとの意見があった。

問 農林課関係
問 阿久根市にイノシシやシカの処理施設ができていないが、処理施設の計画はないか。また、侵入防止柵設置事業で、設置した地域の被害状況は。

答 現段階では処理施設の計画はない。防止柵を設置した地域での被害は報告されていない。

問 水道課関係
問 水道施設管理費の

測量設計委託料で、軽微な測量設計については職員で対応できないのか。

答 今回の設計箇所には、導水管、送水管、排水管の3本が入っているため委託をした。町単独事業については、極力職員で対応して予算削減に努めた。

▼委員会所見
公営住宅建設で、今後も跡地活用等で新築か改修かの判断が必要な事業が出てくると思われるが、施設の建設費に多額の差がないようであれば新築の検討をした方がいいのではないかとの意見があった。

問 農林課関係
問 阿久根市にイノシシやシカの処理施設ができていないが、処理施設の計画はないか。また、侵入防止柵設置事業で、設置した地域の被害状況は。

答 現段階では処理施設の計画はない。防止柵を設置した地域での被害は報告されていない。



藤之元口之福浦線を現地調査



新設された坊津学園

学校統廃合や6次産業化を視察

所管事務調査報告

建設経済文教常任委員会 委員長 下塩見 浩

平成22年3月、同小学校の閉校を受け、久志小学校校跡地活用検討委員会を軸に、久志校区元気づくり委員会を設置して、耐震診断調査や設計書作成事前協議、地元説明会等を実施している。改修費は辺地債を活用し、総事業費4170万円工

事完了。平成24年10月から本格スタートした。公民館は1階のみで、2階は閉鎖している。多目的室や大会議室、図書室、調理実習室、理科室等をエアコン付の宿泊可能な和室にリニューアルし、男女別トイレやシャワー室も完備していた。平成24年度の半年間で96件1434人の利用があり実績をあげている。

次に、南さつま市立坊津学園は平成22年4月1日、旧坊津町の4小学校と2中学校を再編し、施設分離型小中一貫校の坊津学園として開校した。坊津地区の学校再編の経過は、平成19年度から教育委員会が坊津地区各学校地域で説明会を開催。坊津地区小中学校再編検討協議会で平成20年度9月から4回の協議を経て、再編要望書を市長へ提出。その後、小中一貫カリキュラム作成委員会で学校間の調整をして、先進地視

察等も行っている。さらに、平成21年度に市が設置した再編準備委員会、課題別の部会を編成し、地域と教育委員会が協力して再編に伴う課題の解決に取り組んでいる。この部会で、校名や校章、制服、スクールバスの運行計画等が協議され、その結果を市の再編協議会委員に報告して、条件整備を行っている。このような開校準備と並行して、各校区で新しい学校づくりについての説明会も継続して開催される等、十分な協議がなされていた。

現在の坊津学園は校舎を新築し、平成25年4月に施設一体型の小中一貫校として再スタートしている。平成23年度から旧坊津町立の多目的広場に校舎を建設し、多目的広場内の総合体育館を学校の体育館に、運動場を校庭に建設した。広大な敷地には1億円トイレがある物産館、露天風呂・家族風呂・薬石浴などを備えた温泉施設や遊具を備えた子ども広場があり、500台分の駐車場を完備している。オープン2年半で来場者は350万人を突破し、年間売り上げは8億円を超える盛況である。これまで2億円を超える寄付を行っている。さらに、道の駅全体で105名を雇用し、貴重な雇用の場となっている。

現在、町の中心を流れる英彦山川の河川敷の整備を進め、しじみの養殖やハウスでのマングローブやパイアの栽培を行うなど、特産品の開発に力を入れ、全国から視察に訪れる大変元気のよい町であった。

当委員会は、廃校跡地を活用した南さつま市坊津町久志地区公民館と、統廃合して新しく開設された南さつま市立坊津学園、農林水産業の6次産業化の先進地である日置市日吉町の加工グループを、全委員の出席のもと7月11日から2日間の日程で、所管事務調査を実施した。

まず、久志地区公民館は14自治会、人口635人の地域にある。この施設は、閉校した久志小学校を改修し、地域の交流活動の拠点となる公民館として再活用したことで話題となった。

平成23年度から旧坊津町立の多目的広場に校舎を建設し、多目的広場内の総合体育館を学校の体育館に、運動場を校庭に建設した。

活用する等、既存施設の有効利用を図り、約12億6000万円で施設整備されていた。次に、日置市日吉町における大豆の特産品開発について調査した。日吉加工グループは、平成11年度の農産加工センター完成を機に本格的に加工活動を開始した。さらに、水田転作事業を活用した北方生産組合の地元産大豆を使用し、豆腐や大豆の水煮、味噌等の加工品を物産館や直売所で販売している。

しかし、豆腐や味噌といった商品は、県内外でも同じ取り組みがあり、目新しさや話題性に欠け、地元産の大豆約15tのうち、日吉加工グループで使用するのは3t程度にとどまっている状況だった。そこで、可能な限り日置市産素材を使用し、付加価値を高めた特産品の開発を進めるため、10%日置市産「なべスープ」を完成させた。直売所や物産館、インターネットで販売し、ヒット商品となっていた。今後も地元産大豆を活かした新商品開発に積極的に取り組んでいくとのことであった。

調査を終えて、本町でも小中学校統廃合実施計画の作成が進む中、坊津学園の取り組みのように教育委員会や地域、保護者が連携をとりながら、十分すぎるくらいの協議が必要である。獅子島も含めた廃校跡地の活用も、県内でもさまざまな取り組みがあるが、どこの自治体でも苦労している。統廃合と同様に早めの取り組みと十分な協議が必要であると感じた。6次産業化については、現在10グループの育成を行っているが、軌道に乗るまでの育成支援が必要であるとの意見であった。



篠栗町の防災行政無線操作室

防災無線と魅力ある町づくりを視察

所管事務調査報告

総務民生常任委員会 委員長 小川 武男

総務民生常任委員会は、7月30日、31日の両日、防災行政無線をアナログ放送からデジタル放送へ移行した篠栗町、「通過点の町から目的地の町」へ魅力ある町づくりを行っている大任町、さまざまな災害の擬似体験ができる福岡防災センターを訪問し、所管事務調査を実施した。

篠栗町は、糟屋郡の東部に位置し、福岡市から15km程度の距離にあり、総面積は約39km²で人口3万1000人余り、産業構造別人口は第1次産業1%、第2次産業19%、第3次産業80%の町である。篠栗町の旧防災行政無線は、昭和63年に整備したもので、その後町並みの変化等による難聴地域の発生やケーブル障害・断線などの問題が発生していた。さらに、平成28年5

月31日までにアナログからデジタル化への移行が総務省より推奨されており、災害時の情報伝達の迅速化、正確化を図り、住民の安全を確保するために防災行政無線のデジタル化を今年4月から実施している。事業は、平成24年度で実施し、総事業費は3億2000万円余りで、消防防災通信基盤整備費補助金と緊急防災施策債を財源としている。システムは、親局1と屋外子局81からの屋外放送のみの運用で、個別受信機は導入していないが、難聴地域は個別受信機の導入やテレホンサービス、エリアメール等を活用し対応を図るとのことであった。また、地域放送は電話予約での放送が可能で、いくつかの地域で運用している。

長島町の計画は、個別受診機を全戸に設置し、地域放送も同時に複数の団体が利用できるシステムを導入する予定であるため、篠栗の3倍の事業費が必要と思われる。次に、「通過点の町から目的地の町」へ「道の駅おおとう桜街道」を核とし、魅力ある町づくりに取り組んでいる大任町は、田川市に隣接し、福岡市や北九州市から大分や熊本を結ぶ観光ルートの中点で、人口5500人余りの町である。大任町は、石炭需要の減少とともに衰退していく町を変えるためにJ.Rの廃線路線の道路6・5kmを桜街道として整備し、花いっぱい運動を展開する一方、核となる施設として、日本最大級の「道の駅おおとう桜街道」を総事業費28億円をかけて建設した。

福岡市民防災センターでは、風速30mの強風体験、震度7の地震体験、停電状態の中で煙が充満する部屋から脱出する火災体験、大雨時のドアにかかる水圧体験等、普段できないことを体験した。所管事務調査を終え、本町の防災無線のデジタル化には個別受信機の設置、屋外スピーカーの充実、同時放送可能な機器の採用など、設計段階で綿密な協議が必要である。また、本町も一次産業と観光をセットに、町づくりを推進している。町づくりは、ありきたりではなく、特色のある町づくりを行う必要がある。最後にさまざまな災害より被害を最小限に止めるには、日頃から防災に対する認識と訓練が大切であるとの意見であった。

まちの話題



連日、にぎわいをみせている造形美術展

115の大作ずらり

町民がアーティストとなり、一丸となって取り組む第15回ながしま造形美術展が10月19日、『ふるさと再生、とどけ心に！未来に向けて“夢発信”』をテーマに太陽の里ピクニック広場で開幕した。

今回は、町内各集落や小中学校、PTAなどが制作した115点を展示。三島、十島村からも特別出品され、多くの来場者を楽しませている。11月17日まで開かれる。

のんべえは“よいまい”ぞ～

焼酎好きが集い、酔って舞って盛り上がる『焼酎まつり よいまい』が10月5日、B&G体育館で開催された。

昨年に続いて2回目となるこの祭り。会場いっぱいに太鼓や演奏が鳴り響き、焼酎を片手に歌って踊り、場内を盛り上げる姿が随所に見られ、来場者は楽しいひと時を過ごした。

今回はあいにくの雨に見舞われ、会場を屋外から体育館へ移しての開催となった。



屋内で開催された焼酎まつり

◆編集後記

台風24号、27号が接近しましたが、何事もなく通過し、一安心しました。伊豆大島の台風被害を思いますが、災害は何時何時、発生するかわからないものと再認識させられました。

また、今年の夏は高温続きで、特に8月の平均気温は例年と比較しますと3℃近く高くなっているようですが、気温の上昇、台風の大規模化と今後も異常気象が続くのでしょうか。

このような状況の中、10月19日から2年ぶりに始まりました造形美術展。各集落、学校、PTA、団体が一致団結して制作された造形物に、町の一体感を町内外に強力にアピールする絶好の機会であります。

【編集責任者】植元 敏光 (林)

【編集委員長】林 義明

【編集副委員長】古田 一博

【委員】川上 勇

福永 伸親

石橋 東